

ある自治公民館の運営危機を乗り越えるためのウエルビーイング的・思想の展開 —（「身体的健康」「精神的な健康」「社会的充足感」）—

【今おきていること】

本年度、決算が40万円ほど赤字になることが明確になった。（前年度から解っていたことではあるが・・・） ⇒ 特別会計予算からの流用。（臨時総会承認要）
次年度以降も、館員の減少、高齢化による館費の免除世帯増により収入が大幅減物価高騰による維持管理費増、また館費の値上げや、行事（六月灯・敬老会・十五夜等）の縮小による経費の削減による運営維持の検討。（総会での承認要）

【改善案】

- ①館費の値上げ・・・8,400円／年（700円／月）
⇒ 12,000円／年（1,000円／月） 【3,600円×200戸=720,000円】
- ②『準会員制度の導入』・・・実行組合には加入せず、六月灯や十五夜、こども育成会、リサイクルなど公民館で行われる活動のみに参加できる会員制度の新設。
- ③高齢者（85歳以上）会員の館費免除規定の見直し。



『これ実施したら取り敢えず運営は維持できる！！果たしてこれで良いのか？？？』



【当該公民館の現状】

育成会組織として、「こども育成会」「壮青年会」「婦人会」「高齢者会」「こけない体操」「ボランティア会」が存在するが、活発に動いているのは高齢者会・こけない体操・ボランティア会の同じ構成員である高齢者の育成組織のみである。
考えなければならない喫緊の課題は子供育成会が構成戸数45戸程度に対して公民館加入世帯は10戸程度と20%強の加入率しかない。 ⇨ なぜ？？？



「魅力が無い」「得する事を見いだせない」「役員が煩わしい」



『安心して暮らせるまちづくり』『参加しやすい体制づくり』『快適に暮らせるまちづくり』
の3つの因子の導入

魅力が無いから、得する事がないから、役員が煩わしいのであれば、「魅力ある公民館」・「良かったと思わせる公民館」・「役員を担って楽しいと思える公民館」を構築していくべきだ。

ハード面・・・お金の問題 ⇒ クリアできる
ソフト面・・・魅力ある公民館（加入したいと思える公民館） ⇒ 難しい
そこで、魅力ある公民館は次の様に動き出す

「ウエルビーイング」（身体的健康）（精神的健康）（社会的充足感）を兼ね備えた公民館組織とは？？？ 地域には様々なライフステージの中で様々な思考の元、自己実現を目指している様々な方が共存している。その地域コミュニティの中で全ての方が目指しているのは「幸福」ではなかろうか。

「幸せ」実現のために、地域で「助け合い」「学び合い」「励まし合い」「耕し合い」を真摯な傾聴の心で仕分けして実践していく。

【目指す方向】 ソフト面での改善策

①『冷たいイメージの公民館』 ⇒ 活動の中核的施設が閉鎖的

当該公民館は建物289m²（87坪）、敷地4,342m²（1,315坪）（55m × 80m）と広大な敷地を持つが、高さ1m20Cm×長さ8m程の頑丈な鉄格子の門扉で立ち入りを阻まれている。 ⇒ 門扉の鍵が無ければ良い ⇒ 開放的

②『傾聴する心を持った会話がない』 ⇒ こども育成会の構成員公民館加入率20%強はチャンス こども育成会の会合に出席し、色々な会話を実施し、防災・防犯・ごみ問題など 「安心して暮らせる」「快適に暮らせる」コミュニティを発信し「参加しやすい」 公民館をアピールすると共に、今からは。子育て世代でコミュニティを守る事の大 切さを伝える。（新たな事業としてラジオ体操、七夕飾り製作やクリスマスツリー・門松製作を役員と共に実施） ⇒強制ではない作って飾るだけ

③『形骸化した事業の見直し』 ⇒ 参加したやすい公民館構築

六月灯は各実行組合演芸を実施している

⇒ 実行組合長の負担大 ⇒ 開催方式を見直す
敬老会は75歳以上の130人以上の方が対象
⇒ 全員は来れない ⇒ こども達がお弁当・記念品を持って行けば・・・
十五夜はこども育成会のみで開催
⇒ 高齢者会、壮青年、婦人会が共同参画できないのか

④『防災・防犯に関する意識向上』 ⇒ 希薄すぎる

A：見守り（防犯） あの門扉があったら、こども達の集う場所が無い。公民館も図書やトランプやボール等を設置し週1日は開放日を設ける。（見守りは高齢者・婦人会と時間のある方）

B：防災 地域全体での防災の日を設け、一から始める。（1年目：講話 ⇒ 2年目：組織化 ⇒ 3年目：図上訓練 ⇒ 4年目：訓練 ⇒ 5年目：盤石な防災組織構築）